

大島復興交流プログラム 2023 概要報告

2024年2月

大島社会福祉協議会／東京ボランティア・市民活動センター

プログラムの目的

- 2013年に発生した台風26号は、伊豆大島で死者・行方不明者が39名にもおよぶ多大な被害を及ぼしました。あの台風災害から実に10年が過ぎました。
- この復興交流プログラムは、伊豆大島の復興、そして、これから起きる災害への対応を考える機会として開催しました。土砂災害から10年経った伊豆大島が現在どうなったのか確かめるとともに、ご自身の地域での防災・減災について考えていただくきっかけとしました。

プログラムの概要

日時 2023年10月21日（土）～10月22日（日）

場所 伊豆大島 元町地区、神達地区、三原山など

内容&スケジュール

<1日目：10/21（土）>

08:35 東京・竹芝港発（ジェット船）

10:20 大島岡田着・移動

11:00 災害ボランティア・被災者支援講座

※民生委員さんや社協協力員さんと一緒に講座を聞きました。

講師：災害NGO 結 代表 前原土武さん

災害協働サポート東京 事務局長 福田信章さん

12:30 昼食休憩（お弁当）

13:15 ワークショップ（クロスロード+ONE）

進行：東京ボランティア・市民活動センター 災害担当 加納佑一

14:15 被災地スタディツアー

被災地域の散策&語り部：元町2・3丁目～神達、メモリアルパーク

語り部：椿園元女将 清水勝子さん

19:30 交流会

<2日目：10/22（日）>

10:00 ネイチャーガイド（三原山登山等）

12:30 昼食休憩（お弁当）

14:40 大島元町港発（ジェット船）

16:25 東京・竹芝着

参加者 20名 ※東京ボランティア・市民活動センター職員含む

Aコース16名、Bコース1名、前日入り3名

主催 大島社会福祉協議会／東京ボランティア・市民活動センター

協力 一般社団法人災害協働サポート東京（CS-Tokyo）、災害NGO 結、伊豆大島ネイチャーガイド（嶋田氏、田附氏）、大島町役場、大島町民生員児童委員協議会、旅荘 富士や

参加者からの声（アンケート結果から主なものを抜粋）

◆講義・講演、ワークショップについて（1日目）

- ・今回は土砂災害ということで、いつも聞いている講演とは違った内容であったので勉強になりました。大切な人を守るために今何が必要か。連携するためには相手を知っておく…。職場の、地域のみんなで聞きたいお話しでした。
- ・民生委員の活躍の話で、参加されている民生委員さんが強くなずきながら聞いていたのが印象的。
- ・島の方と一緒に考えたり、いろいろ話せたので良かった。飽が意外と盛り上がったのも良かった。
- ・ツアー参加者と地元の方がミックスされたグループ分けで楽しくワークすることができました。自己紹介を含めた話も良かったし、ボランティア、NPO、住民、役場といろいろな視点で意見交換ができて良かったです。

◆被災地域を巡るスタディツアーについて（1日目）

- ・山には10年たった今も土砂崩れの跡が残っていて、その範囲からも被害の甚大さを思い知りました。
- ・以前にも椿園の元女将さんのお話を聞いたことがありますが、10年経ったから話せることもあったり、話すことで苦しくなるのに話してくださる様子を見て、防災・減災の取組みの大切さを改めて感じました。
- ・神達のメモリアルパークあたりはあまりの変貌ぶりに本当に同じ場所なのかと思ったほどです。それでも子どもたちがサッカーやバスケット、スケボーをやっていたり、遊具で遊んでいたりと、慰霊碑の近くに人が集まれる場所になっているのは良いなと思いました。
- ・メモリアル公園にあまり地元の方は行かないという話は悲しくて印象に残っていますが、その真意は何なのか聞けばよかったです（別に悲しむことではないのかもしれない）。

◆交流会について（1日目）

- ・社協事務所に10年前の写真がそのまま残っていて、自分と一緒に活動していた人と再会したような気持ちになり、また当時、自分なりに頑張っていたことを思い出したりして、懐かしかったです。
- ・1時間という時間設定が良かったと思います！延びてあの時間になるのがちょうどよかったです。かきこまった挨拶はいらなくても、所属と名前くらいはお互い紹介しても良かったかも。

◆ネイチャーガイドとめぐる三原山登山について（2日目）

- ・ネイチャーガイドのお2人のお話はとっても面白くて大島愛に溢れていて、本当に楽しかったです。噴火の際は微力ですが、何かお手伝いできたらと思います。
- ・都会にいと“災害”だけ切り取られてしまうような気がしますが、“胸がすく雄大な自然”であり、“大災害をもたらす自然”というものに改めて向き合い捉えなおさせてくれるような地でした。

◆プログラム全体を通して

- ・プログラムを通して、大島の過去・現在・未来を見つめるきっかけをいただきました。大島の過去・現在をしっかりと理解した上で、将来を見据え、団体として、個人としてできる限りのことをしていきたいと思います。
- ・参加者同士のつながりづくりのきっかけをプログラムに盛り込んでいただくと有難いと思いました。ワークショップで実施したような、参加動機(真面目)+最近嬉しかったこと(人となりが少しわかるようなもの)のような自己紹介の時間がほしかったです。
- ・2日間でしたが、とても充実したプログラムでした。地元の方々との交流の時間がもう少しできればよかったです。



最初のプログラムは災害 NGO 結・前原土武さんと CS-Tokyo・福田信章さんによる講義でした。大島の民生委員さんなどと一緒に講座を受けました。



お昼(お弁当)を食べてからの午後はワークショップ。クロスロード+ONE で島民と参加者との交流を深めました。



10 年前に土砂災害で被災した地域を歩きました。大島社協の職員から当時の被災した写真を見せていただきながら、元町から大金沢を上って行きました。



当時、山から崩落した土砂を一部受け止めた堆積工を見学。こんなに大きな堆積工をも越えた土砂災害の威力をまざまざと見せつけられました。



被災地域にあった椿園・元女将の清水勝子さんから当時の様子をお話しいただきました。「互いに声をかけあうことの大切さ」のお話がとても印象的でした。



夜は大島社協の職員の皆さんと交流会を行いました。土砂災害当時のことや大島での暮らしのこと、様々な話で盛り上がりました。



宿泊は「旅荘 富士や」。島で捕れた魚などを頂きました。夜には有志で星空観測会も行いました。



2 日目は三原山に登りました。1986 年の三原山噴火などの痕跡を確認したり、珍しい植物などを見つけながら歩きました。



ネイチャーガイド（嶋田幸子さん、田附克弘さん）のご協力で大自然の雄大さと面白さを学びながら三原山を満喫することができました。



内輪山の山頂からは伊豆諸島が見えました。歩ける人は「お鉢巡り」もして噴火口も見学。足がたくたになりました。



三原山も噴火の可能性が高くなっています。「噴火がないことが一番いいけれど、噴火したら真っ先にかげます」と参加者から。



島民の皆さんのお見送りに感激。大島の魅力を存分に味わって東京に帰ります。土砂災害の教訓を各地で活かせるよう、お互いに頑張っていきましょう！